

【2015/1 /10 経済学部ワークショップの様様】

《近代滋賀県の産業発展と女性の労働・生活・教育》

滋賀県蒲生郡内の高等女子教育

高木未緒（日野町編さん室）



今回は、近代滋賀県における女子教育の実態を探るため、日野商人や八幡商人などを輩出した蒲生郡地域における実態を、主として日野高等女学校並びに八幡高等女学校に焦点を当てて、その設立経緯や運営方針が明らかにされた。双方とも日露戦後に小学校に付設された裁縫学校や女子実業学校からスタートし、明治40年代に町立の女子技芸学校並びに実業補習学校となり、日野町の場合は大正3年に実科高等女学校、同11年には滋賀県立日野高等女学校に昇格し、八幡町では大正6年に町立実科高等女学校、同9年に滋賀県立八幡高等女学校に昇格した。報告では、これらの詳細な経緯とさらに日露戦後に、国家の政策を踏まえ女子教育に町が乗り出していく実地での方針や地域における女子が置かれた教育環境の実態も明らかにされた。

また前回から分析を行っている『近江商人の内助』に記載されている蒲生郡内の事例に、『近江蒲生郡史』『近江日野町史』に掲載されている女性の経歴を加えて、戦前期の同地域の女性の生活と労働の実態が解説された。

今回はこの高木報告がメインであったが、そのほか「戦前滋賀県における女子教育史の概観」、「『新修彦根市史』にみる近代女子教育」「湖国名婦伝拾遺にみる女性の生活・労働・文化」といったサブ報告も



あり、メイン報告の内容と交錯して、滋賀県の主要地域における近代女性の教育と生活・労働・文化に関する相互関係が様々な議論され、また全国的な女子教育の流れの中で近江商人を輩出した滋賀県における女子教育の位置づけはどうなのかが検討された。

さらに様々な史資料には、名望家や豪商の場合だけでなく、庶民や貧窮者の女性が、貧困や病苦、親の介護や子の教育問題等に辛抱強く対処しつつ家族を守りながらたくましく生きてゆく様や、時には夫の商売や企業経営をも知恵と才覚で支え、また自ら事業を推進してゆく積極的な女性の生き方も炙り出されている。加えて多くの女性が書・茶・歌等に秀でた文化人であり地域における教育者として活躍していた姿も今回の報告から明らかになった。

こうした多面的な女性の実態と近代における女子教育とがどのように関連するのかが、今後の課題として確認された。併せて滋賀県で盛んであった各種近代繊維企業における女子教育の実態等について、文献・資料の収集と分析を進めていく必要性が再確認された。（文責 筒井正夫）